

株式会社JFR

環境技術を強みに 国内外とコラボレーション



株式会社JFR

代表取締役社長
宮崎 博

従業員数

10名

設立

2014年

事業概要

機能性食品事業、飼料事業、環境事業、IT事業

オープンイノベーションにより 循環型社会モデルを目指す

私は前職の食品メーカーにて機能性素材、飼料添加物、環境技術の研究開発から事業化に携わり、「有機物は循環(例: 飼料→畜産→糞尿→エネルギーや堆肥→農業→飼料)させなければならない。循環型社会の実現こそが世界中で起きている多くの社会問題の解決につながる」という考えにたどり着きました。当社が持っているコア技術や各分野での知識や経験、海外ネットワークを活かし、多くの資源(エネルギー、物、ヒト、お金)を効率的に循環させるモデルを成功させることが自分・当社の使命と考えています。

このモデルを成功させるためには、「循環型モデルの実現」と「事業利益拡大」の両立が大切ですが、まだ多くの企業がその両立ができておりません。そこで、当社ではコア技術(硝化技術、アンモニア回収技術、培養技術等)を強みとして多くの国内外企業と連携することで両立を目指しています。また、当社の想いや活動を多くの方に知ってもらうためにショールームを四谷につくり、世界で起きている社会問題を共有するとともに、当社



の循環型技術に関する技術や商品、原料等を展示しています。さらに、オープンイノベーションの場として、お越しいただいた方々と議論することによってこの社会問題解決のアイデアなどを育む場にしていければと考えています。なぜなら多くの知識・経験を結集しなければ循環型社会は構築できないと思うからです。

ブランド力を高め、日本の企業・ 大学・地域のみならず海外とも連携

循環型社会の実現のためには当社事業の成長だけでなく協業先を増やすことも大切です。日本の企業や大学などには多くの魅力的な技術があり、コラボレーションすることにより当社だけでは解決できない多くの問題を解決することができます。また、中小企業は大企業に比べてブランド力や経済力が劣りますが、多くの企業や大学が連携することで大企業にも生み出せない価値を創造していくことにより、循環型モデルの価値、自社のブランドの価値が上がると考えています。当社は複数の大学との共同研究や国内外の大手・中小企業との協業によりブランド力を高めることを意識的に行ってきました。

当社では現在、地方の自治体や企業、農場などと地域循環型の事業の構築について協議を始めています。このような循環型モデルが全国そして世界に広がるのが、地方創生や雇用拡大、日本の産業・企業間の連携強化、環境問題の解決、世界平和にもつながると信じています。

ここがポイント！

- 企業使命を実現することで、「社会への貢献」と「事業利益拡大」の両立を目指している
- 「コア技術」を軸として他企業・団体と連携・協業を進めている